

鳥海山の魅力発信

校長 加藤 竜悦



千古の雪をいだける
霊峰鳥海 仰ぎ見て

同窓会員の皆様が幾度となく歌った校歌に登場する鳥海山。晴れた日には校舎から、あるいは通学の途中で目にした雄大な山容は、卒業して何年経っても、皆様の記憶に鮮明に残っていることと思います。

今年で34回目となる全校鳥海登山が6月27日に行われました。同窓会員の支援

さて、ここで、同窓生の皆様に高校時代にタイムスリップしていただきたいと思ひます。



中島台から望む鳥海山

これから鳥海山についての学習(復習)をいたしましょう。

鳥海山は、山頂が日本海の海岸線から直線距離にして約16キロメートルと近い位置にあるので、良く晴れた日には、朝日が登ると、山の陰が日本海に映し出さ



チョウカイフスマ

鳥海山は、これまで幾度となく噴火を繰り返して現在の山容になっている。約2500年前の噴火では、大規模な山体の崩壊が起こり、多量の岩屑が日本海に流れ込み、象潟の九十九島が形成された。

れる「影鳥海」が見られる。また、高山植物が豊富で、7月から8月にかけて、高山植物の群落が花を咲かせ、お花畑が、いたるところに見られる。特に、チョウカイフスマは貴重な高山植物である。

元禄2年(1689年)、松尾芭蕉が奥の細道で象潟を訪れ、象潟や雨に西施がねぶの花と詠んだ句は有名である。浅海に小島が点在する象潟九十九島は、文化元年(1804年)の地震により2メートル隆起し、現在は陸地に小島が点在している。同窓生の皆様が、仁賀保高校在学中に登ったり、眺めたり、思い出のある鳥海山の魅力を、多くの方々に紹介、発信していただきたいと思ひます。

次回、鳥海山のブナ林を復活させようと、「鳥海山へブナを植える」仁高生の取り組みと、鳥海山麓のブナ林内にある天然記念物、獅子ヶ鼻湿原を紹介いたします。

特集 仁高の将来を考える

第7次秋田県高等学校総合整備計画 「統合等再編整備構想」 意見交換会に出席して

日時／平成26年8月4日(月) PM6時
会場／象潟公民館2F研修室

昨年度、有識者による高校再編構想の提言に「由利工業と西目高校が統合を検討する必要あり」と報道され、由利本荘・にかほ地域が大きく揺れ動いたことを鮮明に記憶している。

特に西目高校同窓会を中心に署名活動を展開したことは大きく報道された。実はその中に母校の「情報メディア科も含め」とあったのだが特に大きな行動は同窓会としてしなかつたのが実状である。

しかしながらこのままではいけないと今年4月30日付で佐竹知事宛に横山市長・渋谷県議・佐藤同窓会長他の連名によるメディア科存続の要望書を提出した。そのような中で県教委

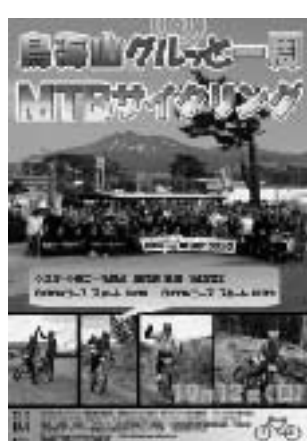
による県内各地域を回つての「検討方針」を聴く会議に亀山副会長(4期)と学校側より加藤校長、木村教頭、伊藤事務局長や旧職員・地域住民が出席した。県教委側としては有識者の提言はあくまでも提言で

あつて、決定事項ではないとの返答があり、今回の第7次計画(日28年度～日37年度)の10年計画が来年6月に第2次素案発表、平成28年2月に成案発表とのこと。

今回の会議に出席して感じたことは、出生数がはつきりしているのだからおのずと学級数減、分校廃止、近隣校同士の合併の話となるのだが、我が母校は遊佐・酒田方面への越境入学を減らすために旧地元三町の

熱意で開校した経緯がある。いくら少子化といつてもまた昔の形に戻ってしまふよりは県内最南端、市町村合併したのだから最低でも1つの市には1つの高校は置いてもらいたい。万が一、母校がなくなつたり分校扱いにでもなれば間違いなくその地域の活気はなくなる。そして越境入学が増えれば将来地元就職者も減りますます人口減になっていくことにならないだろうか。

マイナス面ばかり述べたが、今回の件は仁高将来展望に大きく関わることなのでまた次号以降、情報が入り次第特集として掲載していきたい。



情報メディア科 作品紹介

今年度4月～10月までの作品を紹介いたします。地域貢献活動として年々、すばらしい作品が出来上がっています。来年3月発行の会報には11月以降の作品を紹介したいと考えています。ご期待下さい。

